

2023 年度 東広島市教育委員会主催・広島大学マスタース共催市民講座

「小学生のための実践的な将棋講座」実施報告

広島大学マスタース会員 早瀬 光司

開講日時：2023 年 8 月 3 日（木）・4 日（金）・10 日（木）・11 日（金）

いずれも 13：30～15：00

会場：市民文化センター・研修室 2

参加者：毎回平均すると 3～4 人程度

将棋の全くの初心者向けの講座においては、どのように教示・指導したらよいかを、改めて検討し整理を致しましたので、それらを報告させていただきます。

～～～～～～～～

[1] まず、将棋を対局するときの「礼」について、詳しく説明します。

☆将棋は、礼に始まって、礼で終わります。将棋において、対局相手は決して敵ではなく、一緒にその将棋を創り、楽しみ、互いに生長を期す、仲間であり同朋です。

[2] そして、初心者（将棋を初めて指す子）には、駒の動ける方向の説明から開始します。

☆「歩兵（ふひょう）」は、前方に一つだけ進むことができます。「王将（おうしょう）」は、左右・前後・斜め四方の合計八カ所（王将の周り全て）に進むことができます。そのほかには、「香車（きょうしゃ）」、「桂馬（けいま）」、「銀将（ぎんしょう）」、「金将（きんしょう）」、「角行（かくぎょう）」、「飛車（ひしゃ）」の各駒があり、全部で八種類の駒が存在し動きます（上記の駒の動き方は、文章での説明よりも、ネットなどで図面をご覧いただいた方が分かり易いです）。

☆自分の駒の動ける位置に、相手の駒があった場合、自分の駒がそこへ動くことにより、相手の駒を取ることができます（逆もまた真なりです）。

[3] 次に、大盤を用いて、相手の王将の捕え方を説明します。

☆将棋は、自分の駒で相手の王将を捕えたら勝ちです（逆もまた真なり）。

[4] さらには、相手陣への「攻め方」、自陣の「守り方」を説明します。

☆相手の王将を捕えるためには、相手の王将を守っている相手の駒を攻めて、取るなどして、相手の守備力を弱めることが必須です（逆もまた真なり）。一方、自分の王将を取られたら負けなので、自分の王将の周りに自分の駒を配置して、王将を取られないように守りを固めます（逆もまた真なり）。

[5] また、各受講生の棋力に応じた「駒落ち」を設定して、講師と将棋を指して学びます。

☆互いに同じくらいの棋力同士であれば、20 枚全部の駒を並べ合って将棋を指します（この並べ方を「平手」と呼びます）。

一方、棋力に差がある両者が対戦するとき、棋力の強い人を「上手（うわて）」と呼び、棋力の弱い人を「下手（したて）」と呼びます。この両者が「平手」で指すと、上手が勝ってすぐに決着がついてしまいます。そこで、両者が対局を開始する前に、上手の駒のいくつかを盤上から外して対局します。これを「駒落ち」と呼びます。「駒落ち」にすることにより、両者が互角に戦うことができるようになり、互いに切磋琢磨することができます。

[6] 希望があれば、各受講生同士で将棋を指すこともできます。

☆各受講生の棋力が同じくらいであれば、「平手」で対戦することができます。

~~~~~

本講座では、上記の[1]～[6]を、夏休みの合計 4 回の講座で学びながら、将棋を指します。

本講座の「目的・目標」は、将棋を指すことを通じて、「自分で考える」、「深く考える」ことを身につけることです。さらに言うならば、将棋が強くなることが最終目的ではなく、「自分で考える」、「深く考える」習慣を身に付けることにより、小学生の今後の長い人生を、緻密に繊細に考えることができるようになって、心豊かに、楽しく、生きていくことができるようになることが、本講座の真の目的です。

なお、2023 年までは、下記のうち②だけを受け入れていましたが、2024 年からは範囲を拡げて、①、②、③、④の子を受け入れてみようと考えています。

受け入れ対象者として：

- ① 将棋の初心者（将棋を全く初めて指す子）
- ② 将棋の初級者（将棋を 1～10 回くらい指している子）
- ③ 将棋の中級者（将棋がいくらか強い子）
- ④ 将棋の上級者（将棋が強い子）

以上